京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐべからず

我が信條

南外隱士

自序

現在に不平あり、將來にも滿足は期し難し此間能く小成に安んせず常住平安を保持する道如何、此に三個の所見あり

曰く宗教觀

曰く宇宙觀

曰く處世論

○宗教觀

人の此世に處して煩勞する有樣を浮世の浪に漂泊ふとは良くも諷し得た言葉である、一浪去りて又一浪、際涯なき大洋に投ずる五尺の身を以てす、五十の歲月彼此に何するものぞ、一浪を越ねて終るも一生、百浪を越ねて終るも一生、其間何等の徑庭あるなし、此時に當り能く一度波浪の上に立ちて一瞥たりとも萬波の上に注ぎ得る者あらば如何、彼は一浪だに越ねざるも其生命は富に無窮たるべきである。

こゝに船あり、一切瀕死の衆生を救はんとし叫んで曰く汝等速に來つて我般上に立て汝等を容るゝ大洋の何物たるかを觀よ、汝等の過ぎ來し方、汝等の行手を察せよ、能く味はゞ一滴の水も以て大平洋の異味を解せしむ、飲むで味ふことを知らざれば能く太平洋の水を盡すも亦何等得る處なかるべしと。

其船の帆船なりや滊船なりや、將た又堅牢無比なる軍艦なりやは知らず、共に吾を救ひ吾に恒久の生命を賦與せんと力むるは一宗教は實に此船たるを期するものである。

○宇宙觀（上）

人間が自分の住んで居る此地球の圓い物であると云ふ事を知得したのは僅にこゝ五百年來の事、夫れから精々と研究の結果地球の形体に付ては先づ約その見當が付いた樣であるが、さて夫れから一歩踏みだした月地球の本家たる太陽、其親戚故舊たる諸星の事になると、未だ頓と手が屆かん樣である、況して是等諸物体と凡ゆる空間と凡ゆる心靈とを網羅して居る宇宙の何物たるかに至りては未だ想像だも及ばぬと云ふ有樣である。

然れども物能く其一を極むれば他は之れを推論し得られぬ限りもない、一を聞いて十を知ると云ひ眼光紙背に徹すると云ふ言葉もあると先づ自惚れて置いて、さて人間が現在に有する智識即人間自体の何たる事、人間を載せる居る地球の大体、夫れに萬物進化の理を綜合して考へたならば、此不可思議なる宇宙の本体も、存外さして不可思議なるもので無いかも知れぬ。

地球上の諸物体を形成して居る諸元素を調べて見ると七十有餘あると云ふ事である、十數年前までは未だ元素の數が六十有餘と云はれて居たが、其後人智の發達は元素の數に十有幾つを加へた譯である、まだ／＼發見されぬ元素があるかも知れぬ、而して是は地球上の事、若し地球を踏み出した月夫れから太陽其他の物体に付いて研究して見たならば元素の數は百を以て算すべきか千を以て算すべきか豫定し難いと思ふ、けれども是等所謂諸元素をもう一つ詮じつめて見たならば或は唯一つに歸するかも知れぬ、眞の元素は唯一つであるかも知れぬ、さてかの不可思議なる宇宙の眞想も此唯一元素の發見に連れて或は明瞭になりはしないかとも思ふ。

地球上の諸物体は所謂七十有餘元素の化合又綜合によりて成る、其組織の單純なる者は金石となり草木となり、其複雜なる者は禽獸となり人間となる、斯くて是れ等一切を包含する地球自体ともなる、組織の單純なるものには單純なる心靈宿り複雜なるものには複雜なる心靈宿る、こゝに所謂進化の理階級の上下が來て居る譯である、けれども或は最後に發見せらるべき彼の唯一元素が地球上に於て酸素となり水素となり水となり氣となりて軈て金石草木禽獸人間を產み出したものとすると、進化必しも進化ならず、人間が金石草木に比して彼の唯一元素を遠ざかれる如く進化の極致たる宇宙にも遠ざかつて居る樣に思はるゝ、人間よりも複雜なる心靈を有すべき地球太陽が宇宙に近づきつゝある如く人間より單純なる心靈を有する草木石金亦宇宙に近づきつゝある樣にも思はる（此項續く）

中山大納言

第廿一席　桃川燕玉 演

其時中山大納言御進みになつて「恐れながら勅諚に言葉を返し奉るは甚だ其恐れございまするが、餘りと申せば御口惜しき事にございまする、既に天朝の先例に從はせられ、至孝の御德を表はし給はん爲、屢々關東へ御內慮を下されたるに、關東の跋扈止まる所を知らず無禮の儀を屢々申上げ、叡慮を沮み奉る段以ての外でございまする、縱へ逆鱗あらせられずとも、臣下の怒りは實に止み難く、天朝の御稜威之が爲に地に墜ちんとす、故に臣等群議を凝らし天裁を請ひ奉り、此上は關東より答の有無に拘らず宣下あらせらるべくと御英斷あらせられ御內意にせよ一旦仰せ出されましたるに、關東より脅迫の申條を以て三卿呼下しの儀を達したるに依つて、俄に御見合せの御沙汰あつては、正しく關東の威勢に壓されたるの事と相成り、如何にも嘆かはしき次第にございまする、公武の差障りを思召され給ふ事御尤もに存じ奉るが、禁中から其差障りの禍を開きしに非ず、關東より之を開きしに何の恐れ給ふ事やあらん、三卿呼下しの儀に就き臣等が憂目に遇はん事を深く召されての御沙汰ならんには、恐れ乍ら思召し除りに過ぎさしたる事と存じ奉る、臣等が一身の安危は屑に候はず、天朝の御稜威を頭に戴き東に赴き候はんに何の心配や候はん、又關東にて無体の取扱ひに及ぶとも少しも悲むべき所にあらず、何卒叡慮を鎭させ給ひ、前議の如くに仰せ出さるゝやう願ひ上奉る」と赤心面に表はれて、至誠忠無類の中山愛親卿、涙と共に言上致しました、並居る公卿方も皆袂を浸して悉く感服を致す、陛下に於ても感涙を御催しに相成り「今に始ざる事乍ら、忠節の程は感服致す併し御心に思ひ定めたる御事なるに依叡慮に從ひ奉れ」と云ふ、關東から返答の來る迄は御見合せと云ふ事に相成り殊に三卿關東へ向の儀は仰せ付けられずと關東へ沙汰を致しまするやうにと云ふ勅諚茲で致し方がございませぬから、一同其儀に決して退散を致しました、されば此度閑院宮樣へ太上天皇の尊號を差上ぐる一件は御見合せになり、これが爲に三卿關東へ下向の儀は相成らぬと所司代に御沙汰になつた、そこで早速所司代から此段を關東へ申登りました、松平越中守は之を承りますと思はず知らず涙を流して喜んだのは「アヽ恐入つたのは主上御聰明に渡らせられ、中山殿を始めとして諸卿の群議あれ程までに仰せ出された尊號一件、斯くまでに思ひ返させ給ふとは思はざりしが、御見合せに相成つたと云ふは實に聖天子の御盛德、寶祚萬々歲、天下泰平の御事、謹んで定信賀し奉る」と京都の方に向つて三拜九拜をして、越中守定信は大いに喜んだ、是は關東無雙い忠臣。されば早速に將軍家齊公の御前に出でゝ此段を言上致した、所が、十一代の將軍家齊公は心中面白くない、と云ふのは京都で閑院宮樣が太上天皇になれば、御自分の生父一橋樣を直ぐ大御所公と申上げ西丸へ入れやうと云ふ、どうもさう旨く行きませぬから、腹の中では面白くないが兎角う言ふ譯にもいかぬから、それに付三卿呼下しの儀は如何致した　越「其儀は所司代より送りました書面にございまする通り、宣下御見合せの上は御呼下しには及びませぬ」、言ふと家齊公「其方共は強いて予に申勸め、呼下すことに一旦決したるを、忽ちに相止めるは如何の次第、予が威光にも關はる篤と考へて申立てよ」越「ハヽツ」將「以の外の不都台である」プリ／＼怒りかへつて居る、據ないから越中樣は「畏りました」と云つて御前を退つた、すると一橋中納言を大御所と崇め、其一件に就て自分達が巧く出世の蔓を捉まへやうと喜んで居りました連中が、京都に於て御見合せの御沙汰や聞くと落膽してしまつた、飛んでもない玉違ひになつた、仕方がないから何でも構ない中山納言を江戸に呼寄せて、營中に於て松平越中守と問答をさせ、越中を言ひ負かさせて遂に京都に尊號宣下を致させる外はない、これは斯うしたが宜からうあゝしたが宜からうと密に相談に及ばれましたのは、御側御用人堀田攝津守、御側衆加納遠江守、林肥後守、酒井隱岐守、御留守居曾我伊賀守を始と致しまして、江戸の大奥で幅の利きまする御役人大目附御小人目附、續いて御徒士目附など、一橋殿へ大層肩を入れて居る輩が澤山ございまするそれに一橋樣は御親子の間柄でちよく／＼御登城をなすつては將軍家齊公にいろ／＼御相談などもございまする。





京城新報

無意味なる官吏減俸 寧ろ增俸せよ

統監府の豫算內容として報せらるゝ所に依れば、高等官一割判任官二割の割合を以て減俸を斷行するとの事なるが、之れ甚だ謂はれなき事ならんか、此等官吏の俸給は一割二割とした丈逆財政上に何程の影響かあらむ、惟ふに官界今日の弊は俸給の高きに非ずして冗員多くして事務の擧らざる點にあり、是を以て實際の狀態よりすれば減俸するよりも、此際無能不適の吏員を淘汰し適材を擧げて增俸するを以て寧ろ適切の所置と云はざる可らず、祖國に於ては今や官吏增俸の議あり、上下兩院議員の增俸と共に本期議會に其案を提出せらるべしとの說あり、要するに今日は決して減俸の時に非ず、物價の昂騰生活程度の昂進に從ひ增俸は勢ひ免る可らざるの時也、其增俸、伴ふて議すべきは從來各官廳には情實や其他の關係によりて數多の不適無能者を存し、後進有爲の進路を遮斷し之が爲に其事務の捗らざる弊ありき、漸次此惡風は多少除かれたるが如きも今何は其弊風殘存す、然り此弊風の洗滌せられざる限りは到底官界の振肅は期す可らざる也、下層の官吏所謂刀筆の俗吏に至りては素より適不適を論ずべき資格なく、唯命令に從て簿書堆裡の事務を整理すれば可也、實際事務の擧ると擧らざるは課長以上の人物如何にあり、而して課長以上の輩が役所に於て其事務に鞅掌する狀態を見るに彼等は甚だ高くとまりて容易に自ら事務を取らず、唯下僚の提出する書類に認印を押捺するを務となす、從て下僚も亦た一意專心事務の進捗を計らず、實際彼等にして民間に働く者の如く忠實に勤勉すれば各官廳とも概して其人員を半ば減ずるも能く之が事務を擧げ得べき也、今は所謂適材を適所に配置し以て冗員を淘汰する時代となれり、此際に於て不適無能の冗員は其儘存置して只其俸給を減ずるが如きは抑も時代遲れにして事務を進捗する所以の道に背くもの也。

熟らく韓國に於ける官廳の狀態を見るに殊更に此感深し、吏員多くして事務の擧らざる恰も舟子多くして舟山に登るの觀なくんばあらず、此際に於て須く決行すべきは課長以上に適材を擇するにあり、然らば其以下は半數となすも差支なかるべし、要は事務の簡捷を計り以て官紀を振肅するにあり、余輩の見を以てすれば鐵道廳も通信管理局も韓國側各官廳共に冗員を淘汰する必要あることを感ず、是を以て徒に唯一割二割の減俸をなすよりも寧ろ增俸して不適無能者の淘汰を斷行するの至當なるべきを信ず、是れ事務を敏活にし以て官紀を振肅する所以也。

東京電報

▲清國の安協申込

本日北京政府は東京駐劄公使を經て我政府に左の申込をなせり

一、速かに安協交渉をなすべければ工事を中止されたし

一、他の諸懸案も引續き交渉し吉長線借款を速かに調印すべし

▲日本政府の回答

右の申込に對し我政府は左の回答を爲せり

一、工事は中止せずして交渉に應ずべし

一、他の懸案の交渉は喜んで之に應ず可し

▲布哇罷工者の復業

布哇の本邦同盟罷工者五百余名は既に復業し兩三日中に全部復業すべし（十日着）

▲日糖事件の判決

日糖事件の控訴院判決は左の如し

松浦、長谷川、西村（重禁錮十ヶ月）澤田、荻野（同八ヶ月）横井、江崎（同五ヶ月）田村、安田、神崎（同四ヶ月）佐倉、小澤（無罪）横田、白井、栗原（控訴棄却）追徴金、松浦（二萬〇百五十圓）長谷川（三千圓）西村（八千三百圓）澤田（三千圓）荻野（千四百圓）横井（二千五百圓）田村（六百圓）安田（六百圓）神崎（七百圓）刑の執行猶豫は一人もなし

▲我陛下と韓太子

天皇陛下には炎暑を冒し巡啓中なる韓太子の上に就き深く御軫念あらせられ宮相を經て御尋ねあり且つ伊藤公へ御慰勞の御沙汰ありしに就き韓太子よりは健勝に旅行中にして深く叡慮を感謝する旨同じく伊藤公よりも謹て感謝の旨を奉答したり（九日午後着）

▲韓太子大學參觀

韓太子殿下は昨日札幌農科大學其他を巡覽し本日室蘭に着し炭鑛會社に御投宿あり（同上）

▲立川代議士辭表

代議士立川雲平辭表提出衆議院之を許可し內務大臣に補欠選擧の件を請求したり（同上）

奉天電報

▲清國の態度平穏

安奉線改築實行に對する清國の態度は極めて冷靜にして抵抗の模樣なく又沿線の巡警增加說の如きは全く無根なり（十日午前着）

▲支那新聞の檢束

東三省に於ける諸新聞紙は安奉問題に關する記事の掲載を差止められ人心頗る平穏なり（同上）

地方電報

▲咸興增水と農作

本月一日及二日の降雨にて咸興城川江一丈增水し其上流堤防大缺潰三ヶ所にて之れに次ぐもの數十箇所あり浸水十面に亘り被害反別約七千町歩其收穫皆無七百町歩なり被害地の收穫豫想は穀類十分の六、豆類十分の二の見込、他郡にも被害多く目下調査中なり（咸南發）

東京電報

▲安奉線工事の抗議

……を刎ね付け今更工事を中止する必要なし其他諸懸案問題に關しては喜び交渉に應ずべしと答へたり

雜報

●山林經營方針

韓國に於て山林の最も豐富なる地方は江原道及平安南北道にして其面積凡五六萬町歩ある由なるが江原道の內麟蹄郡の八千町歩は既に調査を了り十年計畫を以て輪伐すべく仁川の顯原修一郎氏に拂下げをなし平安道の山林は本年中に調査を了り其他は慶尚北道にて面積凡二萬町歩の鳥嶺山林あり目下調査中なる農商工部の之に對する經營方針は豫算の如きも從來は一時的のものにて洵に姑息の計畫なりしも來年度よりは根本的に豫算の基礎を作る筈にて近々の內成案を見るべく其經營方針は保安林の性質あるや否やを定め保安に關係なきものは輪伐を許すことゝし更新は人工と天爲とを以て適宜に處便する筈なるが前項山林の主なる樹木は樅、松、白檜、唐檜、雜木等なりと云ふ

●興銀借欵の支途

興銀より韓國政府の借入れたる借款百八十四萬磅は手取り一千七百九十六萬余圓にして其支途は本春伊藤統監の時代に於て既に決定し居たるものにて八年計畫の土地調査費に一千萬圓三年計畫の天日製鹽費に百十六万圓中央銀行に百九十八万圓（實際は二百〇三万圓を支出する筈なるが五萬圓の不足は他より補充すべしと）起業資金即ち築港、道路等の費用に四百八十万圓を使用すべく決定し居れりと云ふ

●未墾地利用の不成績

未墾地利用法により開墾、植林、養魚の認可されたるもの內日本人は約三分にして七分通りは悉く韓國人の出願に係るものなるが今其の實況に就いて視るに一度開墾植林等に着手したるものも當初の計畫意の如くならずして中途放擲し又は着手せずして期限を經過したるもの多く大体に於いて未墾地の利用に成功したるものは僅々十分の一に過ぎず要するに未墾地の利用は尙十年の後にあらざれば成効し難きものならんと某當局者は談れり

●土地調査豫算年度割

韓國土地調査事業計畫は屢次所報の如く臨時財產整理局に於て準備進捗中なるが該事業は八箇年の繼續にして之に對する歲出豫算の年度割左の如くなる由

年度割	豫算額
第一年度	一九、五四八圓
第二年度	八六九、九一〇
第三年度	一、五五六、八一二
第四年度	二、四六六、五七六
第五年度	三、一二〇、〇三三
第六年度	三、〇一七、〇六二
第七年度	二、三〇三、一三五
第八年度	五〇〇、七三一

即ち總計金一千四百十二万九千七百七圓にして是に應ずる歲入豫算を聞くに一千萬圓は借款を以て之に充て殘金は土地登記手數料を見込めるものなりと

●平安北道の養蠶有望

平安北道に於ける養蠶業は將來頗る有望にして現に同道內紬を產出せさるは只厚昌、……

●司法權實施事項成案

司法權實施に關する各種の事項即ち裁判所構成法、警察制度の改定、非訟事件等に就……官は之れを携へ東上の筈なりと

●地方費と微細の雜稅

地方費の稅源中從來徵收しつゝある雜稅に……時に前記雜稅にして其稅額微細なるものは之を賦課徵收せざる方針なりと

●昨年度の諸稅徵收額

本年五月末現計隆熙二年度諸稅徵收額如左

（稅種）	調定額	收入額	未收入額
	圓	圓	圓
水產稅	一四、六三三	九、四九八	五、一三五
鹽稅	三五、二二四	一三、〇〇一	二二、二二三
船稅	一七、〇六三	九、六二一	七、四四二
鑛稅	八六、五七八	四九、六七二	三六、九〇六
人參稅	一、二二八	九六五	二六三
雜稅	一八、八〇五	一七、六三九	一、一六六

●司法局官制の成案期

司法權委任に伴ふ諸般の制度は統監府當局者に於て鋭意考究中なるが今其調査に關する大方針を聞くに始め其事務を統監府の一課とする說と特立官制を發布して統監直接之が管理を爲すの議に分れしが結局後者に依ることに決し統監府司法局なる官制として調査を進めつゝあり而して豫算編成期も既に目睫の間に迫れる事とて遲くも四五日中には具體的の成案を見るに至るべき由

●韓國民法編纂の形式

民法編纂の形式に就て梅博士の談を聞くに同法は最近の法典たる日本民法に則り總則、物權、債權、親族、相續の五篇に分ち總則、債權の二編は諸國大体に事情同じきものあれば各國の法典を參酌して編纂するの方針なるも物權、親族、相續の三篇は各國特種の事情多きを以て專ら重きを慣習に置かざるべからず是を以て內閣法典調査局に於ては孜々として之が調査に從事しつゝあり同法典の編纂完成期に就ては未だ確たる事を明言し難しと

●各上半期概況（其七）

漢城共同倉庫株式會社

社長 趙鎮泰　支配人 石井光雄

資本金 十五万圓　政府貸下金 三十四万六千六百圓　積立金 三萬五千圓　上半期純益 八千九百十三圓余　利益配當 年一割五分

上半期營業景況

營業の最も多忙なるは米穀出廻り時期乃ち十月末より四五月頃迄となす然るに本年の上半期は米穀の輸出殆ど杜絕の姿なりしを以て從て地方より出廻りなく米穀商は殆ど手を束ねて傍觀するの狀態なりし爲に本業務も亦從て閑散ならざるを得ず五六月の交に至りて多少の地方よりの廻米ありしも是迚捗々しきことなかりき而して米穀の外には砂糖、精米、麥粉、洋酒等多少保管せるものありしも是れ亦經濟界沈滯の爲に輸入少なければ本業務の繁盛を見る能はざる也。要するに韓國人は未だ倉庫業の利便を解せざるが故に韓人の得意は頗る少數にして未だ語るに足らず然れども韓商等も漸次其利便を悟り來るべし故に將來は頗る有望と云はざる可らず現に米穀の產地なる忠淸道江景出張所の如きは韓商の得意尤も多く否全部韓商なりと云ふも可也。出張所は平澤、仁川、江景にあり江景平澤の如きは將來頗る有望。保管料は

米穀五斗入	一個	三錢五厘
砂糖百斤	同	三錢
麥粉五十磅	同	一錢五厘
洋酒一打	同	五錢
日本酒四斗入	同	十二錢

●韓人側經濟界

韓人側經濟界の近況は相變らず不況にて於音の禁厭稅制の改革及商人の發展等諸多の事情綜合して原因を與へ實に五年來の不景氣なり最近に於て穀物相場の低落は實に一層の惡影響を與へて購買力減少し無職者多く慘狀を極めつゝありて辛ふじて上半期を送りたるが從て各銀行の金融狀態は遊金多きも民間の資金需用なく將に預金利子引下の必要に迫られつゝあるの有樣にて夏時商業の閑散時代は今一月も經過せば絕るべく冬物仕入時期に入らば多少の資金需用起るべきも是とて大した事はなかるべく之を要するに韓人側經濟界は不況の絕頂に達せるの有樣なり各銀行の預金は昨年に比し四と三の割合にて貸出は昨年と大差なし斯る狀況にて一般に前途を極めて悲觀しつゝあるが之が救濟策として何等良策を見出すを得ず自然の成行に放任するの外なかるべしと某有力者は語れり

●保稅倉庫と京城商人

南大門驛の保稅倉庫は防火、貨物保管に就ては完全なる設備を有し且つ預托者の爲めに火災被保の便も計り部分出の依願にも應じ其倉庫料も民間倉庫に比し一二割方安なるに拘らず比較的依託者の尠きは未だ之が利用法を周知せざるに依るものゝ如く尙は貨物一立方尺の預托費は一箇月普通貨物に對し一錢乃至二錢なりと

●各部豫算編成と增額

韓國各部より度支部への明年度豫算案提出期は九月なるを以て各部共期日切迫せる事とて目下來年度豫算案の編成中なり而して各部共夫れ〳〵新計畫ある由なれば請求額は前年に比し著しく增加すべき見込なりと

●軍部廢止と豫算移屬

本年七月勅令第六十八號を以て七月三十一日限り軍部を廢止したる結果該部經常費の歲出豫算は宮內府に移屬すべきを以て同日迄の歲出を締切り其豫算殘額十七萬三千三百五十圓二十七錢は皇室費に移し又同部臨時部憲兵補助員費は度支部所管に移屬したり

●地方費施行準備

地方費施行の準備として科目、科率に關する府道令の認可及び地方費の出納に關する地方費會計規則は目下度支部內部に於て協議中なりと云ふ

●漂陽工業傳習所

全南漂陽に染織及竹細工を傳習せしむる實業學校を設立し農商工部に其補助を出願し來りたるを以て內部にて審議の上近々補助する事となるべしと

●水產局豫算成る

農商工部水產局に於ては過般來明年度の豫算編成中の所既に脫稿せしを以て會計課に廻附せし由なり

●南支金庫の改稱

忠州支金庫は濟州支金庫と又た寧邊支金庫は義州支金庫と改稱する旨度支部令を以て公布せられたり

●軍部財產後始末

從來軍部に屬せし歲出入豫算金額及び財產は總て宮內府に移し現に不用の財產は度支部所管に移屬せり

●昨今の保稅倉庫扱高

例年を通じ昨今は商界閑散の時期なるも本年は商業不振の爲め一層甚しく輸入貨物の日々の扱高は僅かに三十噸內外にして其主なるは無論大阪及び同地以西にして關東物は多からず其品目も單に當期用酒ビールサイダー、實質を主なるものにて韓人向白布及雜貨の如きは其量極めて少しと

●警部豫備試驗の終了

過般內部警務局にては全道警察署に於ける成績優等なる巡査中より警部任用豫備試驗を擧行し目下成績考查中なるが近々內部に召集して學術及口述試驗を擧行の筈尙韓人巡查の考試は本月一日付を以て日人同樣に豫備試驗擧行方を內訓し本月二十五日擧行すべしと

●一銀貨幣發行高週報（自八月一日至同月七日）

一、第一銀行券總發行平均高	九、六〇九、二〇〇
內　正貨準備發行額	三、二三〇、〇〇〇
保證準備發行額	六、三七九、二〇〇
二、銀行券平均手許有高	六五三、九二八
三、銀行券市場平均流通高	八、九五五、二七二
四、硬貨發行額（八月七日現在）	四、三七三、八四〇
內　金貨二十圓	一、三五〇、〇〇〇
同十圓	五〇、〇〇〇
銀貨五十錢	六八三、〇〇〇
同廿錢	七七〇、五〇〇
同十錢	四八七、五〇〇
白銅貨五錢	七七四、六〇〇
青銅貨一錢	一四九、二三〇
同五厘	六三、四六〇
金貨五圓	五〇、〇〇〇

●大坂火災と韓國警察

大坂市の大火に關し罹災警察官及之れに從事したる警察官を慰藉する爲警井警務局長若林警視總監以下日人警視、警部より金一百圓を贈呈したりと尙一般罹災者に對しては適當の機關を以て夫れ〳〵義捐金を送附しつゝありと云ふ

●村田新任中將の出發

築城本部長村田中將は昨十日午前九時南大門發列車にて歸朝の途に就きたるが南大門驛には大久保軍司令官石塚長官以下各參與官統監府各高等官、韓國側よりは各大臣以下文武官其他知名の人士の見送り盛なりき

●日英博覽會事務囑托

統監府は日英博覽會事務取扱方に就き各部に於て一名乃至二名宛書記官事務官又は技師中より撰定して囑托したりと

●教育會夏期講習

大日本教育會にては新歸朝者佐々木吉三郎氏を聘し來る八月十五日より五日間夏期講習會を開催する筈入會志望者は東京本鄕根津宮永町同事務所へ

●救世軍の大遊說

在京城救世軍本營にては韓全道に涉たり大々的布教を開始する計畫にて既に去る八月中尉ペオクス將校レロルンの二氏を大邱方面に中尉カッチ氏を同九日太田方面に派遣したりと云ふ

●勞働會本部移轉

種々の醜聞を流せる例の勞働會本部は從來西部皇華坊貞洞十一統五戶に設けありたるが去る七日中部仁平坊槐木洞六統八戶に移轉したりと云ふ

●大臣會議の休會

昨日は統監邸に於ける大臣會議定例日なりしも暑中に就き休會

●白澤博士の來京

農商務省林業試驗場長林學博士白澤保美氏は去九日夜來京せり

●大林區署長來京

秋田大林區署長林駒之助氏は昨十日の夜來京したる筈なり

公人私人

▲山本典夫（海軍中尉） 入京中九日水原へ

▲小林源藏（鐵道院參事）本日下仁大連へ向ふ

▲辻太郎（同院技師）同大連へ向ふ

近事片々

▲安奉線問題に關し或筋より注意あるや京城日報は直に冷靜愼重なれとの說を揭ぐ

▲物の響に應ずるが如し流石は御用紙されど新聞紙の責任を諄々迂說せる片腹痛し

▲他の新聞紙以上に愼重の態度を持せり新聞責任叙說は自己に忠告の意味か

▲淸國攝政王安奉問題交渉の成行を知らず慶親王梁敦彥等自己の勝手に振舞し者か

▲斯く不埒極まる交涉者の爲に對手國に迷惑を掛ける耳ならず自國の國是を誤る也

▲從來韓國にも淸國にも之に類する例は不乏

▲日本今回の英斷は列國の對淸政策に幾變更を來すに至るべしと外交團に期待せらる

▲左もあらむ之に依て淸國利權回收熱も幾分冷却せらるべし淸國漸く頓悟に入るか

▲淸國兵窃かに間島に入るもの多しとの說あるもこは例の巷說ならむ實ならば不可

▲如何に淸國地方官と雖も兵を以て我を威嚇して奏效すべしとも思ふまじ必ず虛說

▲一度安奉問題の當地に傳はるや當の日淸人は冷靜なるも局外の韓人のみ大騷ぎす

▲韓人は由來流說を好み彌次馬的騷擾を好む惡僻あり今回の如きも亦其一例ならむ

▲韓銀は日本銀行に臺灣銀行を加味せる者金融機關整備を俟て中銀の本務に復すと

▲其營業部は東拓金融部と重複云々は杞憂也一國の金融は二三銀行にて滿足せずと

▲以上は荒井次官の語る所左もあらむ東拓金融部との衝突云々は簪の穴の小さき論

▲米國の關稅案は裁可せらる是に依りてタフト氏の關稅政策は充分に發揮されたり

▲タ氏はル前大統領の如き精悍奮鬪の猛變きも渾圓に優悠迫らざる雅懷は賴母し

▲南阿に於ては近來日本工藝品の賣行多し爲に直接取引を申込み來る者多しとは可欣

▲米國博物學者ロング氏は永く猿の研究に從事したるが要領を得て其說を發表せり

▲猿へ立派なる倫理と共同心とを有すと類に其美點を擧ぐ其行動感心なりとは珍說

●天氣豫報（自十一日午後六時至十二日午後六時）

北 東風 晴

韓國上流の風儀(三)

今も尚は時めき居る或る大官は今を去る二年前の頃、愛する令息の爲に矢張り大官の令孃を娶ることゝなしぬ、さても花嫁御寮御入來となるや、令息の喜びは素よりさることながら、花嫁御寮は今日を晴れと紅粉の裝ひに丹精を凝らしたれば平生に見優りする幾倍、之を見たる舅父なる大官はゾッと戀風身にしみて心も狂はむ計りにぞある、子の妻たる嫁に戀するは韓人なりとて其不倫なるを知る、幾度か思ひかへしたれど天魔は既に心の底に魅へりて、煩惱の犬も追へども去らず、如何にして此戀仕遂ぐべきやと肝膽を碎きしも現在我子と同衾せる嫁に近寄る詮はなしと、とつおいつ戀の奴に責められ居りしが、茲に一計を案じ出しぬ、そは其令息を花嫁より離して東京に遊學せしむることなりき、令息は痛く新妻と離るゝことは假令暫しの間なりとも好まず、幾度か遊學せずに此地にて勉學したしと愁訴せしも、腹に一物ある父大官は何條之を聞くべきや、果ては父の言葉に背く不屆奴として痛く叱られ不興を蒙りしかば、令息は泣く泣く父の言葉を背ひ未だ幾夜も新枕を換さゞる新妻と飽かぬ別れを惜みて、纜をさして東をさして旅立ちぬ、實に是ぞ世に云ふ生木を割ける無情なる手段なりき、東の空をさして旅立てる令息は兎角後髪を曳かるゝ思ひあり、新妻を思ふ無量の憂身を滊車に乗せて行ける令息が心も推し測らず、父なる大官は其後嫁の室を訪づれて孤閨の淋しさを慰め且つ巧みに艶舌を揮ふて年にも恥ぢず切なる思ひを語りて之に從はんことを獎めしも、花嫁は只々呆るゝ斗り戀ひ慕へる新郎の旅立ちに氣も心もやる瀬なき折柄、舅君のいやらしき口説何條聞く耳持つべきや、唯打伏してよゝと計りに泣のみ亂されど魔道に入れる舅父は默して此儘立去るべきか、さても其後さる程に如何に說伏せたるものなるか、舅父なる大官は毎日々々花嫁御寮の御見舞となり、妻なる人の居らざるときは嫁の室に泊り鴛鴦の契り語る睦言の外に漏ることもありしとか、いつしか此事は邸内にパツとなり終に人の口の葉に上ることゝになれり、如何に戀路に迷へる大官たりとも世の噂となりては人中に顔向けもならず其當時は暫らく謹愼したるも人の噂の薄らぐと共に花嫁の居所を人の知らざる所に移して今度は世間晴れて淫樂を擅にするに至りぬ、花嫁御寮もいつしか舅の次の深情に絆だされて後には却て花嫁より慕ふて其來ることの遲きを喞つに至る、實に戀は曲者なる哉、舅嫁二人は終に道ならぬ暗路に迷ひ入る、然るに茲に一大事の起れるは何者か此事を東京なる令息の許に報知したるものあることゝなりき。

姦通の現行を押ふ

▲金を貸て嚊を取らる
▲警察官のオツな仲裁

仁川濱町二丁目船乘業中濱富太郎(四十八)と云ふは同業者平元濟吉(五十)なるものに豫て三十圓許の貸金ありしも濟吉に於て支拂ひ出來ざるより自宅に引取り使用し居たるに不埒なる濟吉は富太郎が内縁の女房たる山本なか(三十八)を口說落して何時しか情を通じたるを富太郎が嗅ぎ付け注意中とも知らず昨十日午前一時頃姦夫姦婦は富太郎の不在を幸ひ此暑いにも厭いなく同衾して怪しからぬ所行に及び居たるを豫てそれと隙ひ居たる富太郎が今は一寸も猶豫せず姦夫姦婦其處動くなと躍りかゝつて裸体の兩人を引摑み殆ど半狂亂の如く暴れ倦くりし揚句仁川署に引張り行き相當御處分をと願出でたるも警官も元々内縁の妻の事なれば穩かに濟ます方宜しからんとて猶七となかには嚴しく說諭を加へ一先づ引下がらしめたりと

▲嫉妬令▼

第一條　夫の胸倉を把て小突廻すこと夫の出先へ電話を掛け呼戻すこと夫の他より歸へりたる時疑た態をして戸を開ざるなど論なくチンチンをなすものは總て此の條令に依て罰するものとす

第二條　夫が一家の生計を支へるだけの働きをなす限り假令夫が夜遊びして歸るとも今頃戻つて湯なんかありませんよと茶漬の要求を刎付くべからず

第三條　食事の際夫が之は味拙と肴に箸を着けざる事あるもソリヤ何で妾しの煮たものですもの彼女の煮たものとは味が違ひますなどゝ言ふべからず味拙といへば更に味善く煮直すべし

第四條　夫の外出なす時下婢小僧をして尾行せしむべからず、また女文字の郵書來るも窃つと開封して女中に言ひでないよなど口止めをなすべからず口止を貰ひたる女中は之を以つて斷すべし

●蛇と情死せし美人

宮崎縣東諸縣郡高岡村花見百番戸森本吉郎の長女ケサヱ(二四)と呼へるは名高の美人にて今小町と評判さるゝ女なるが病氣の爲め思ふ樣に音聲の出でざるを苦にして之が平癒を祈らんものと鎭守の八坂神社へ唯一人朝夕に日參せるに其の神前を立去らんとする度毎に祠畔の岩屈に女にして見まほしき好男子の佇みて微笑を漏らしいと馴々しき素振を見する事あり又午寢の際は枕頭にて蛇の鳴き聲を聽き或は米搗く時にも頭の上に來て頻りに鳴く等と家人に話し居たりしがけさゑは去月十六日の正午頃突然水泳に行て來るとて大淀川を指して立出でたる儘歸らざるより一家の騷ぎとなり諸所心當りを搜すも全く行衛判らず漸く翌十七日に至りて隣村倉岡境にけさゑの死體漂流し居るを某と云へるが發見し斯くと報知せし爲め始めて溺死と知り家人の嘆き一方ならず早速醫師と巡査に急報し置き急ぎ現場に驅付け死體に被せし菰を取除くに這は抑も如何に、長さ五尺餘周り九寸位の縞蛇がけさゑの死體に添臥し鎌首を擡げ居るにぞ家人親戚共の驚き一方ならず怖々ながら漸く追ひ除けて警官の檢視を濟まし死體を棺桶に收めんとする折りしも如上の縞蛇はニヨロニヨロとして出で來り棺桶の下に潛みたれば再び逐去らしめたる後死体を收めんとて蓋を開くれば不思議なるかな蛇は棺桶に跪り居るより一同は薄氣味惡く蛇を叩き出すと共に蒼皇入棺して其の場を立去り葬儀を營みたりと

●猫島の警入風

仁川署の賭博檢擧は尚續行せられ居れるが又々昨日午前一時頃猫島邸内にて檢擧せられたり、之れより先き同猫島内昇榮樓方にて一昨夜宵の口より濱海樓樓主畑山善次郎(五十)淀川樓々主船越六三郎(四〇)金榮樓桑園榮吉(四十)及び昇榮樓の主人小林庄吉(三十七)の四名は車座となり弄花に余念なき所へ午前一時花房町派出所巡査は兼ねて用意のありたるものにやドヤドヤと踏み込み樣畑山と船越の兩名を逮捕したるが其の間に小林と桑園は暗に姿を匿して行衛を晦ましたれば警官は前記二名を本署に引致して取調べ中なりと

●仁川宮町の火災

仁川港宮町二丁目ウルテンの貸倉庫より昨日午前四時半頃發火し噴れ切つたる倉庫は見る間に全部燒き盡しウルテンの家屋に延燒せんとしたれば驅け付けたる消防組は必死となり消防に努めたれば幸にして燃燒を免かれたるが出火の原因と云ふは借元山口幾太郎が雜貨及び香油を貯藏し置きたるが昨今の暑氣に油は自然と揮發し終に發火し他の雜貨に燃燒し内部を燒き盡したる上外部に出でたるものなりと而して其の損害額は家屋三百六十圓貯藏品五百九十五圓なりしと

●薄情男の標本

龍山本町二丁目三番戸雜貨商藤井濟次郎(三三)と云へるは母きく(六三)妻そよ(三二)長女よね(六つ)の家族を控へたる身にも不拘三ケ月程以前より同地にゴロツキ居たる明石ツ子と云へる女と情を通じ其後當地花園町へ一戸を構へ右つねをして雜貨商を營ましめ自身は其家に引移りて更に一家を顧みざるにぞ母子二人を引受けたるそよは商賣も碌々出來ず家計にも苦しむ樣になりたれば何卒夫に歸宅すべき樣御說諭ありたしと母子三人連署を以て一昨九日南部署へ願出でたりと

●甜瓜賣の亂暴

西部南大門外青坡趙ヨ奉(二三)と云へるは去る九日午後二時過旭町一丁目角田三千穗方に至り甜瓜二個を參錢にて賣りしに其際近隣の木本ふぢなる者來り是又三個を需めんとせしに言語の行違ひより趙は大に立腹し毛欸の甜瓜を一時に角田方の座敷へ投げ出したる機みに襖一ケ所穴を穿ちたれば角田が承知せず持合せし煙管を以て眉間に一發食はしたれば朝鮮八、常として直ぐ警察署に驅け込み十五錢の治療費を強請つて事濟み

●劇場騒せの言渡

去月五日中檢披露劇の際歌舞伎座に於て井門榮太郎氏を突き飛ばし腦振盪を起さしめたる松葉亭の料理人大杉吉は昨日當地理事廳に於て罰金三十圓の言渡しありたり尤も同人は既に三十日以上未決監に呻吟し居たれば相當の苦痛は嘗めたり因に辯護士は高橋章之助氏なりしと



唄と云はず何んでも來いの所謂百藝に通じた腕利きものとして調法がらる花月の加代

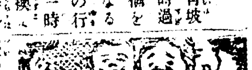
●昨今の苦熱

本年の暑氣は單に韓國のみならず内地備州皆然る由なるが、去る兩三日の如きは室内の温度九十四五度に上り斯る酷暑に會て覺へなしと一韓老は云へり

家庭の讀物

●家族デー

妻君は内を護るものだとて、到頭生涯内から外に出さぬ亭主がある、其癖亭主は外交をするものだとてノベツ幕なしに内を空けて自から怪しまぬ、コンナ亂暴なやり口で何して家庭が圓滿に行くものか、其處で一家には是非家族デーを作るの必要がある、一年は四季だ、春一日の花見會、夏一日の納涼會、秋一日の紅葉狩、冬一日の雪見船、老人も小兒も無論妻君も亭主も一緒に成て一日を遊び暮すと云ふ趣向が欲しいものだ、年にタッタ四度の遊びだ、金が幾らかゝらうとも、亭主が一回の宴遊費があれば一家擧つて一喜をさせられるのだらうして、此家族デーは成るべく何かの紀念日を選ぶがよい、當主夫婦の誕生日老人夫婦の結婚日、小兒の入學日に卒業日轉宅日に、就職日、色々考へて見たら四季を通じて紀念日は澤山あらう



◀平民文庫▶

安奉線問題もトウトウ淸國から安協と出掛けた之れは最初から何が何でも切つて居る事でおる支那人の外交振は隨分ズルイ遣り口だ(外交家)▲新町遊廓近來の寂れ樣と云つたらない何んとか景氣を附ける工夫は無き者にや(實見生)▲此間の夜一二時頃本町交番の前を二臺の人力車が無燈で通行して居たら査公が跡を追跡してコラノヽと呼ぶ一臺は巴城館の方へ行き一臺は本町を東へ飛んだ査公は巴城館の方へ二三間驅け行き又引返して東に追はんとしたが遂に二臺の車一亩を飛んで見へ無くなつた諺に云ふ二兎を追ふ者は一兎をも得ずとは此事であらふ(可笑生)▲京城樓の茶雞子は米國人と日本人の混血兒じやそうですが事實ですか(聞度生)▲傾城に誠なしとは實に能く言つた者じやナー(大悟生)▲今更の樣に何をれつしやるのです(小僧)▲愛國婦人會の本部は隨分紛紜が起つて居る樣ですが之れは所謂貴夫人連の虛榮心から起つたものでしやう當地の支部でも愛國婦人會杯と豪らさうな肩書きを振り廻はして密夫を爲て居る連中もありますが記者さん一つ彼等の醜狀を素破拔いては如何です(長家の嚊)▲身體の肥つたものはナゼこんなに熱いのでしよう大方脂肪がブクブク腐つて行くのでしようネー本當に嫌やなこと(肥滿女)▲今中藝妓部屋を覗いたならドンナ助平でもムツとするでしよう僕は此間思はず之れに遭遇して三年の戀もさめ果てました併し熱いから無理はないです(未公)▲商賣人の嚊は一體に横着だ僕は本町筋で女の度つて居る店へ四度這入つて四度共癪に障つた(短氣者)▲京城中の人の喰ふ肴代が一日四百圓位とは其少額に呆れた(新入生)

公告

一博物標本 四種

右は大阪市南區高津西坂森田治郎兵衛殿より當民團立京城中學校へ寄附相成候條此段公告す

明治四十二年八月十日

京城居留民團民長熊谷賴太郎

を提出して工事中止せんことを申込み來りたるが之に對して政府は斷乎として之

慈城、江界の三郡のみなるが當局者は遂に來蠶業講習所を開設し斯業を獎勵し居り

…三日中に全部決定すべきを以て兒玉書記…居留民稅及典當舖稅を地方費に編入すると同

各種洗濯石鹼 専門製造販賣

用途

陸軍、鐵道、船舶、鑛山、水道湯屋、散髮、諸工業用

京城旭町二丁目 （電話九七三番）

朝日石鹼製造所

▲無料紹介欄▼

人事部

●英文代書 通譯懸聘 本町一の七五中村

●商品販賣員募集 午前十時前希望者本人來談あれ 本町一、三巴酒店裏武田質店（四一〇）

●被雇度 年廿九市内に確實保證人有韓語に通ずる不問職業被雇たし 氏名在社（四一三）

●韓語通譯 會社銀行又は商店を問はず韓語通譯に被雇たし 氏名在社（四一二）

●留家庭教師 某美術學校卒業生廿三歳市内相當の家に被雇たし 氏名在社（四一四）

●下女入用 年齢三十歳より四十歳迄にして身体壯健なる者至急入用但し月給八圓 氏名在社（四一七）

●被雇たし 月俸廿五圓以上を望む通信事務韓語翻譯中等教育年廿四不問職業 氏名在社（四一八）

●賣藥行商人數名募集 希望者は本人直接來談あれ 明治町三の一五七 水田藥房

物件部

●賣す開業向貸家あり 本町三丁目 贊化堂藥局（四一二）

●貸家 南山町二丁目にて煉化造二階建十疊と外四疊二階二間家賃面談 氏名在社（四一五）

廣告



銘酒 雪乃松

仁川港 釀造元 大森酒場

韓國一手發賣元 永島商行

京城日の出町一丁目 （電話架設中）

入○○○院○○○○○○隨○○○意

松岡醫院

南山町二丁目

電話六七五番

各○○○科○○○○○○診○○○療

▲清潔の下宿▼

客室の清潔と調理の美味と御扱の懇切とを特色として下宿營業仕候間賑々敷御投宿の程御願申上候

壽町二丁目十番戸横小路（元花屋跡）

▲懇切の下宿▼ かめ屋

登錄商標

外用塗擦 治癬藥（ちそうやく）

○せんしんたむし○なますす○せにがさ○ひんきんたむし○しらくも○くさかぶり○すがさ○みずむし○ひぜんがさ○がんがさ○しもやけ○うるしまけ其他皮膚病一切に特効あり

右は弊店世に傳ふる處の靈藥にして皮膚病一切に用ひて卓効あり從來此によりて幸福を得たるもの遠近老若と數顧を多しと回大方諸君子の懸請默しがたく材料を精選し較近の醫學に照らし加味調劑を正確にし官許を得弘く世、發賣せんとす世の皮膚病に患める士女願はくは一度本劑を試用し効果の顯著なるを御實驗御高評の程奉願上候

最大瓶 一圓二十錢
大瓶 六十錢
中瓶 三十五錢
小瓶 二十五錢

調劑發賣元 仁風堂浦尾きち

韓國京城南部壽町一丁目浦尾旅館

代書 ゴム印彫刻

京城本町一丁目南部警察署前

成巧舘代書部 成巧舘彫刻部

一鴨綠江製材 一北海道松材

各種板類一切 及小割類種々

右今回弊店に於て販賣開始仕候間續々御用命被仰付度充分大勉强御高需に可應候

京城本町五丁目 山本村太郎 煙上支店

電話三七〇番

時節柄敷物及夜具等新調仕り室内の設備も相整申候御客樣に對しては叮嚀親切を旨とし調理の義は從來よりも一層勉强可仕候間倍舊の御引立奉願候

京城南山町四丁目

原金旅舘

（電話長七〇一番）

株式會社 第一銀行韓國總支店

電話番號
長第一一番 國庫部、發行部、營業課、當直用
第三三一番 國庫部、發行部、營業課用
第六一番 支配人、調査部、文書課用
第三三二番 用度係、分析所用
第三六三番 臨時建築部用

本店 東京市日本橋區兜町

內地支店 大阪、兵庫

出張所 京都、伏見、橫濱、名古屋、四日市、下關、神戸、大阪西區、東京新大阪町

韓國支店 仁川、大邱

出張所 釜山、元山、鎭南浦、木浦、群山、平壤、開城、城津、成興、馬山、鏡城

清國出張所 安東縣

右の外內外各地重要なる場所には爲替取引先あり營業事務に關する御用向は當店營業課長に御相談被下度候

瑞西タバン時計會社韓國代理販賣店

米國ウォルサム時計 米國アンソニヤ時計

韓國特約販賣店

獨逸國スカンジヤ自轉車特約販賣店

時計卸商 喜多金光堂本店

仁川本町三丁目 電話七五〇番

時計卸小賣 喜多金光堂支店

京城本町二丁目 電話架設中



株式會社 百三十銀行韓國總支店

京城本町二丁目十五番戸 電話五十八番

資本金五百萬圓 頭取 安田善三郎

爲替取組先

畿內 大阪、京都、西陣、伏見、奈良、郡山、八木、高田、田原本、堺、貝塚、岸和田、御影、兵庫、神戸、平野、住吉、茨木、下市

東海道 東京、橫濱、大磯、甲府、靜岡、名古屋、半田、熱田、四日市、津、山田、桑名、松阪

東山道 彥根、八幡、大津、長濱、大垣、岐阜、前橋、伊勢崎、宇都宮、福島、若松、青森

北陸道 秋田、能代、七尾、高崎、小濱、福井、敦賀、鯖江、金澤、大聖寺

山陰道 宮山、伏木、新潟、宮津、舞鶴、新舞鶴、豐岡、鳥取、米子

山陽道 境、松江、久手、大田、龍野、姬路、西大寺、笠岡、高梁、玉島、福山、鞆、府中、尾の道、三原、廣島、岩國、山口、柳井、平生、下關、萩、德山、小郡、長府、網干、牛窓、味野、岩見、岡山

南海道 串本、御坊、田邊、新宮、和歌山、尾鷲、州本、撫養、德島、善通寺、丸龜、高松、八幡濱、川之石、宇和島、今治、西條、松山、三津ヶ濱

西海道 直方、飯塚、博多、福岡、若松、久留米、若津、中津、小倉、門司、行橋、後藤寺、佐伯、別府、大分、伊萬里、牛津、長崎、佐賀、熊本、宮崎、鹿兒島、八幡、長洲

北海道 函館、小樽、札幌

台灣 臺北、臺南

韓國 仁川、釜山、元山、鎭南浦、平壤、木浦、羅州、大邱、群山、安東縣、晉州、尙州、馬山

清國

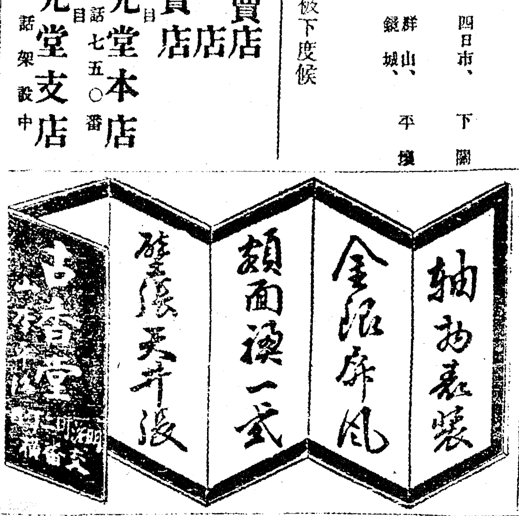
銀行一般の業務精々便利取扱可申候

眼科專門

京城本町一丁目憲兵分遣所前

江頭眼科醫院 （電話三三）

前漢城病院眼科部長 醫學得業士 江頭富雄



移轉御披露

京城旭町三丁目十六番戸（三日月湯下隣）

東京生そば 東京庵

電話九五五番

營業科目

活版活字鑄造 石版銅版 木版彫刻 コロタイプ版 寫眞版 銅版 製本裝釘

今般日韓印刷株式會社ヲ日韓印刷株式會社ト改稱致シ左記ノ處ニ東京出張所開設仕候間倍舊ノ御愛顧之程奉願上候也

日韓印刷株式會社

本社 京城明治町三丁目 電話（三二三番）

東京出張所 東京京橋區南鍋町一ノ十 電話新橋（三九六二番）

牛馬犬豚治療所

（入院隨意）

京城明治町三丁目（電話四二七番）

小川家畜病院

獸醫 小川鎗太郎



貨物運送取扱 危險擔保運送 稅關貨物取扱 貨物引換證發行 代金付貨物運送

內國通運株式會社

京城支店 京城南大門驛前 電話七〇八番

仁川出張所 仁川驛前 電話五一二番

釜山出張所 草梁驛前 釜山驛前 電話六一六番 草梁驛前 電話九三七番

龍山派出所 龍山驛構內 電話二〇六番

明治廿年七月創立

東京火災運送海上保險株式會社

資本金一千萬圓

京城代辨店 本町四山口吳服店 電話九番

事務所 京城本町二の三 電話一〇六〇番

漬物 味噌 醬油 製造元

大上商店

京城本町五丁目 （電話二五一番）

和洋酒、㋹精酎、穀物麵類、銘茶、罐詰、乾物荒物、食料雜貨、ビール、米糀、塩辛、日本食鹽各種特約販賣尙御望に依り商品切手調進仕候

中元大賣出し



待合貸席 月の家

本町五丁目三八 電話一〇七四

銀行一般業務精々御便利に取扱可申候

資本金參百萬圓 積立及繰越金八拾萬圓

京城南大門通 株式會社十八銀行京城支店 （電話四二〇）

本店 長崎市築町

支店出張所 京城、龍山、仁川、木浦、釜山、元山、群山、羅州、大阪、熊本、佐世保、嚴原、五島、壹岐

韓國 日本

其他日本、韓國樞要地、及露領浦鹽に爲替取引先あり

貯蓄預金 一口壹錢以上何程にても御預り申候（利息日歩壹錢四厘）

長崎貯蓄銀行代理店 （十八銀行京城支店）

日本郵船株式會社 仁川出帆廣告

貨物及船客取扱店

仁川海岸通 電話三十番 郡回漕店

●釜山長崎門司神戸行 山東丸 八月二十九日午後三時

●大連、大沽、牛莊行 高砂丸 九月九日正午時

●大連、大沽、牛莊行 山東丸 八月・十七日午前四時

●大連、大沽、牛莊行 酒田丸 八月廿六日正午

●釜山出帆、元山、清津、浦鹽行 立神丸 八月十八日午後出

御注意 御乘船ノ際ハ稅關波止場ヨリ本船迄御送迎船ニテ御送リ可申候送迎船ハ本船出帆ノ約五十分前ニ解纜ノ事

●新聞料 ▲一枚金二錢▲一ヶ月前金卅五錢▲三ヶ月前金壹圓▲六ヶ月前金貳圓▲郵稅一ヶ月金拾錢
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回五十錢▲五號活字十九字詰一行金六十錢

發行兼編輯人 高木久馬太
印刷人 松久神一郎
發行所 京城新報社 京城西署西小門通 電話六六三番